



旧蔵内邸

雅楽特別公演

舞楽 陵王

りよう
おう

厳かな雅楽の調べと優美な舞



2026.11.29【日】

午前の部 11:00~12:15

午後の部 14:00~15:15

※途中休憩なし。

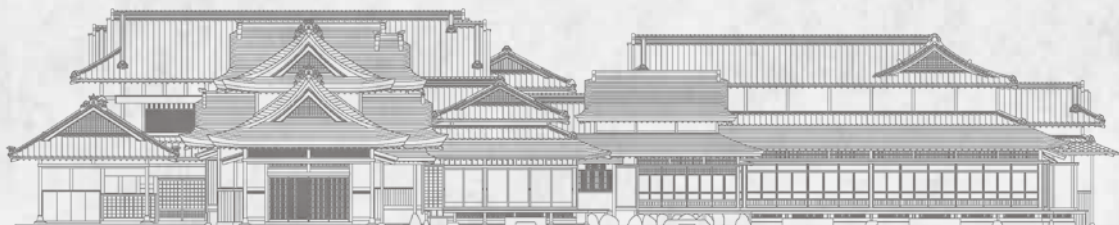
※内容は午前/午後同じ。

出演 天理関門雅楽会のみなさん

入場料 入館料金のみ (一般310円/小中学生100円)

会場 旧蔵内邸 大広間 福岡県築上郡築上町大字上深野396番地

座席 自由席 (各50席) *満席時は他の部屋からご鑑賞いただけます。



主催：築上町教育委員会

問合せ：旧蔵内邸 ☎0930-52-2530

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。

旧藏内邸で堪能する いにしえ 古の美しい音色と優美な舞

●日本の伝統音楽を知る「雅楽」

雅楽は千年以上前から受け継がれてきた日本の伝統音楽です。飛鳥時代から平安時代にかけて朝鮮半島や中国大陆から雅楽を奏でる楽器とともに音楽、舞が伝わり、宮廷音楽として整備される中で日本独自の発展を遂げました。

雅楽は主に楽器だけで演奏する「かんげん管絃」と音楽に合わせて舞を奏する「ぶがく舞楽」から成ります。

●主な演目 えてんらく 管絃 … 越殿楽・陪臚 ばいろ ほか
りょうおう 舞楽 … 陵王・拔頭

演奏者天理関門雅楽会

平成13年（2001）、メンバーの子どもが通う学校からの演奏依頼をきっかけに発足。発足後は北九州市内の小中学校、神社のほか、公共イベントなどあらゆる場で演奏を行っています。演奏を通して、地域のみなさんと触れ合う喜びを大切に日々活動しています。



雅楽の魅力に迫る。 雅楽には指揮者がいません。演奏は静かに始まり、静かに終わります。

■管絃と舞楽

管絃では、吹き物（管楽器）、弾き物（絃楽器）、打ち物（打楽器）の3種類の楽器で演奏します。この編成は西洋音楽のオーケストラと同じで、明治時代初めにオーケストラが日本に導入された時、雅楽の「管絃」に音楽の「楽」を付けて「管弦楽」と翻訳されました。

舞楽では、管絃と異なり楽器編成が管楽器と打楽器のみになります。また、テンポも管絃ではゆるやかなのに対し、舞楽では舞人が舞いやすいように、リズムカルで速くなります。

1. 吹き物（管楽器 / 三管）



(1) しょう 笙

雅楽独特の雰囲気を出し出す唯一和音を奏する楽器です。リードが湿ると良い音が出ないので、演奏前に火鉢等で暖めて乾燥させます。また吹いても吸っても同じ音が出ます。



(2) ひちりき 篳篥

雅楽の主旋律を奏でる縦笛です。長さ18.5cmと比較的小さな竹製の縦笛で、演奏前にリードを湿らせることで吹きやすくなります。西洋音楽のオーボエと起源が同じです。



(3) りゅうてき 龍笛

広い音域を持ち、旋律に彩りを添えるように演奏される横笛です。横笛にはほかに、神楽笛や高麗笛があります。

*リードはとても薄く小さな板で、息を吹き込んだ時に振動することで音が鳴り、管体全体に伝わって豊かな響きが生れます。

2. 打ち物（打楽器 / 三鼓）



(1) かくだいこ 楽太鼓

金属の飾りが付き鼓面には三匹の唐獅子の模様が描かれます。座って二本のバチで太鼓の裏側を打ちます。楽太鼓のリズムが舞台を引き締めます。



(2) かっこ 鞀鼓

演奏の開始と終わりの合図、曲演奏のテンポを決める役割があります。木の台に載せ2本の木のバチで打ちます。



(3) しょうこ 鉦鼓

雅楽で唯一の金属製打楽器です。直径15cm程度の金属製の皿形を2本のバチで打ちます。

3. 舞楽 りょうおう 陵王・ばとう 拔頭



陵王 / 将軍の威厳あふれる戦いの舞 — 勇壮な金色の面と紅のうちかけ襦袢 軽快華麗な走り舞

舞楽には中国大陆から伝来した左舞（唐楽）と朝鮮半島から伝来した右舞（高麗楽）とがありますが、陵王は左舞（唐楽）の演目の一つです。舞は、恐ろしい形相の面を付けた武将が馬上から兵士を指揮し、敵城の中に深く攻め入って大軍を打ち破る様子を表現しています。華やかさと勇壮さを兼ね備えた、威厳のある装束や舞具も見どころです。この舞楽は、中国の南北朝末期に、蘭陵王長恭が金墉城で周の大軍を打ち破った史実をもとに作られたといわれています。才知武勇の武将、長恭は味方の兵が見入ってしまうほどの美貌の持ち主であったため、戦の際は顔を隠す獐猛な仮面をかぶって兵士を指揮しました。

舞人は周囲を毛で縁取った襦袢装束と、龍や金翅鳥を模し、吊顎や動目の仕掛けが施された面を身に着けます。右手には金のバチを持ち、馬上で指揮する武将を表現しています。舞は龍笛と太鼓、鉦鼓による前奏曲「小乱序」に始まり、「乱序」で舞人が舞台上に登る所作「出手」を舞います。間奏曲の「沙陀調音取」に続き、演目の中心「当曲」が舞われ、最後に龍笛と太鼓、鉦鼓による「乱序」で、舞台から降りる時の所作「入手」を舞い、舞台を下ります。

拔頭 / 父の仇の獣を倒し、山を駆け降りる走舞。清少納言が『枕草子』の中で「いとおもしろし」と評した舞楽。